



# 校長室だより

令和5年度

6月 6日

NO. 10

## 子供による、子供たちのための勉強

6月1日(木)、岡崎市の理科の指導員の日下部先生をお招きして、授業を見ていただきました。5年生は「メダカ」について勉強しました。秦梨の子にとって当たり前のメダカも、いまや絶滅危惧種(レッドリスト)です。他の学校では、「メダカってどこにいる?」と聞くと、「カーマ」という子もいるほど、今や生活の中で、あまり目にするともなくなっています。(他の学校では、メダカの勉強をするのに白メダカを購入しているところが多いです)そんな秦梨の子にとっても、さらに日本にとっても、貴重なメダカを守っていくことは、重大なミッションでもあるでしょう。子供たちもそのミッションを達成するために、「メダカ」のことを知り、自分たちの学区の「メダカ」を守っていくために、「オスとメス」を見分けて、卵を産んで増やしていくよう考えていく、そんな授業を行いました。秦梨小が行っている「ふるさと学習」は、故郷を思い、故郷を守っていこうとするものであり、いつもそうした意識をもって、今日のように授業に臨める子供たちは、立派です。

学校で行われている『学び合い』の学習では、「一人も取り残さない」の目標のもと、子供たちが自分たちでやることを考え、子供たちで課題を解決していきます。これは、今の秦梨の子にとっては当たり前であるかもしれませんが、人数の多い学校や、私たちや保護者の方々が過ごしてきた学校では、理想のような勉強です。一人も取り残さず、子供たち自身で課題を解決するためには、当然ですが、協力し合わなければなりません。もちろん、日頃、悪口を言ったりけんかをしたりしている間柄では、当然うまくいくわけはありません。分からなければ聞かなければなりませんし、一人で困っている子がいれば、助けてあげなければなりません。一方的に先生に教えてもらうのではなく、自分たちで考えるのです。現在の教育で言われるのは、「主体的、対話的で深い学び」です。これはまさに、今、秦梨っ子が行っていることと同じです。そしてそんな授業ができるよう、先生たちも勉強しています。

この日は、代表として3年生、5年生、6年生で授業を見てもらいましたが、子供たちの考える時間になると、時には一人で、時には友達と話し合ったり、時には教えてもらったりするなど、一人一人が自分で、どうやって課題を解決していこうか考える姿が見られました。先の5年生の授業では、メダカは小さくて、なかなかオスとメスの区別がつきにくかったですが、見比べたり、確認し合ったりしながら、最後には自分たちできちんと選び取ることができ、子供たちの顔は、誇らしげでした。そんな、子供たちに笑顔の見える、楽しい授業ができることは素晴らしい、これからも深化させていきたいです。

